

門下隆聖人物語

第7回

武装する僧侶

たちが立てたものだから、自分の配下であると思っていたんだね。



550

平安時代の四十二年間（二〇八六〜二二一九）にわたり院政（政治）を行い、権力を持った白河法皇は、比叡山からの強訴（本尊を担いだ法師、僧侶達が自分たちの意見を押し通す行い）に悩まされました。その有り様を、「私の思い通りにならないことが三つある、賀茂川（京都市内を流れる川）の水の流れと、サイコロの目と、山法師（比叡山のこと）」と言ったんだよ。

比叡山からの迫害

しかし、延暦寺は二つに分かれるんだ。山を下りた寺門派（園城寺・三井寺）と呼ばれる僧侶たちと、山に残った山門派の僧侶たちとで激しく争うようになり、やがて双方で武器を持つ僧侶、僧兵が生まれ、多いときには四千人もいたんだ。この延暦寺の僧兵による迫害は、安土桃山時代まで続くんだよ。

比叡山からの迫害

比叡山の創建

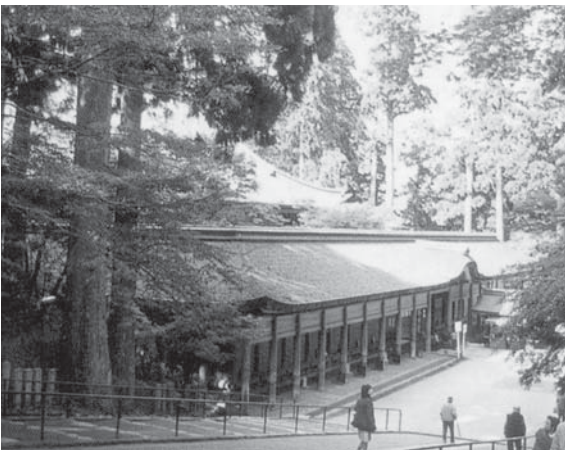
延暦四年（七八六）に奈良の東大寺で正式に僧侶となった伝教大師・最澄は、京都の北にある比叡山に小さなお寺を建て、仏様の遺されたお経を勉強されるんだ。そして、延暦二十三年には遣唐使船で唐（中国）に渡り、当時の色々な仏様の教えを学んで日本に伝えたいんだよ。やがて、比叡山は国立の寺院である「延暦寺」というお寺になり、日本の総合大学のような学問所になるんだ。そして「日本仏教の母」とまで言われるんだよ。

それと、比叡山延暦寺と言うと、山の中に大きなお寺が一つだけ建てられているような感じがするけど、山全体がお寺なんだよ。そして山のあちこちに、多いときは三千もお寺があったそうなんだ。

やがて、延暦寺で学んだ僧侶から、法然（浄土宗）や栄西（臨済宗）、道元（曹洞宗）や親鸞（浄土真宗）など、日本を代表する宗派の開祖が生まれるんだ。もちろん日蓮大士もここで学ばれたんだよ。だから延暦寺は、日本で弘まった宗派は教え子



比叡山の僧兵



比叡山延暦寺根本中堂

日蓮大士から、京都で教えを弘めなさいと命じられた日像聖人は、永仁元年（一二九三）京都に入り、日蓮大士の教えを弘められるんだ。そして京都で力の有る人々がご信者になるんだけれども、比叡山は、ことわりもなしに勝手にご信心を弘めていると邪魔をするんだよ。

徳治二年（一三〇七）から元亨元年（一三二一）までの間に、三度も京都から追い出されるんだ。しかし、そのたびに許されて、とうとう四条櫛笥に妙顕寺が建立されるんだよ。

妙顕寺は、大勢の人々がご信者になり、また貴族からの援助もあって大いに栄えるんだ。しかし、妙顕寺が盛んになればなるほど比叡山は面白くないわけで、とうとう嘉慶元年（一三八七）に、妙顕寺は比叡山からの僧兵によって壊されてしまうんだ。

その後、室町幕府の三代将軍・足利義満公の働きで、明徳四年（一三九三）に、三条坊門堀川にお寺を建てる事ができるんだけれども、妙顕寺の名前を付けることができず、「妙本寺」という名前を付けるなければ許してもらえなかったんだ。

また、応永二十年（一四一三）には月明の僧正位昇進に怒り、妙本寺も壊されるんだよ。日隆聖人も苦勞されるんだけれども、それが縁となって二つのお寺（妙蓮寺、本能寺）が建てられるんだ。